

524 レモン負荷Tc-99m耳下腺シンチグラフィにおける経時的SPECTの試み

小野寺敦、有馬 昭(船橋市立医療セ 放)

耳下腺シンチグラフィは酸刺激を利用したゲイチック収集にて時間放射能曲線を作成するのが一般的である。そこで多検出器型装置の普及による短時間収集での SPECT が可能である事に着眼し、より客観的な耳下腺シンチグラフィ施行を目的に、2 検出器経時的 SPECT によるレモン負荷 Tc-99m 耳下腺シンチグラフィを試みた。 $^{99m}\text{TcO}_4^-$ の唾液腺への集積は比較的高く周囲に吸収補正の必要な臓器が少ない事から、N/S 比の少ない良好な短時間での SPECT が可能である。よって解剖学的位置関係と経時的な腺内 RI 分布を把握できるため、CT/US/MRI との対比あるいは術式選択へ有意であると思われた。特にワルチン腫瘍では、断層像による患側の集積増強程度や負荷後の再集積過程等、それぞれ局所的な動態機能判定が可能となった。

525 シェーグレン症候群における ^{67}Ga -SPECTと酸負荷併用 $^{99m}\text{TcO}_4^-$ 唾液腺シンチとの比較検討

酒井英郎、長井英仁(国立加古川病院・放)、西山直子、坂本 攝、山崎克人、(神戸大・放)、松井美詠子(三木市民・放)、河野通雄(兵庫成人病セ)

シェーグレン症候群の唾液腺病変に、 ^{67}Ga が集積することが知られているが、planar image では、病変の存在や活動性についての評価にあまり利用されていない。

近年 SPECT 装置の発達により、頭頸部の複雑な解剖学的重なりを分離して描出することが可能となり、診断精度向上が期待されるが、唾液腺を対象とした報告は少ない。

今回我々は、シェーグレン症候群を対象に、個々の唾液腺について ^{67}Ga -SPECT 病変部の集積状態と、酸負荷 ^{99m}Tc 唾液腺シンチと比較検討を行い、臨床的にみられる自覚症状やサクソソテストにより計測した唾液腺分泌能と、これら RI 所見との関連を再評価した。

526 PETによる食道癌の診断—吸収補正の有無による画像の比較—

姫野信治 幕内博康 田仲 曜(東海大学外科)
安田聖栄 井出 満 正津 晃(山中湖クリニック画像センター)

Transmission scan (TS) の省略で、全身PET検査を簡略化できるが吸収補正(AC)のない画像では癌の診断精度が問題となる。今回TSを行いPETを施行した食道癌30例で、AC有無の画像を比較した。FDGを260MBq静注し45分後に骨盤から上顎の範囲を全身PET装置(ECAT EXACT45)で撮影した。その結果食道癌原発巣、リンパ節転移、肺転移の検出で、AC(+)画像で陽性の病巣はAC(-)画像でも陽性で、TSの省略によっても食道癌の検出精度はほぼ保たれると考えられた。さらにTSの省略ではSUUVによる定量的評価ができなくなるため、SUUVとT/N比の比較も行った。また病巣の部位、サイズ別にも両者の画像を検討し報告する。

527 ^{13}C -標識化合物を用いた消化吸収呼吸テストの基礎的検討—実験モデルラットによる—

中川禎介、大原裕康、山本雅人、米島正博、鈴木敏夫、辻野大二郎、齋藤宣彦(聖医大三内)、佐々木康人(放医研)

^{13}C -標識脂肪酸と脂肪を正常及び、消化吸収不良モデルラットに投与後、呼気中 $^{13}\text{CO}_2$ を測定する呼吸テストを施行し、本テストの消化吸収不良の診断における有用性について検討した。【方法】 ^{13}C -化合物は、微細藻類より生産された ^{13}C -脂肪酸と ^{13}C -脂肪を用いた。対照は、ウイスター系雄ラットで、消化吸収不良モデルとして胆管結紮あるいは、胆管-結腸瘻を施した。【結果】 ^{13}C -脂肪酸投与では、正常、実験モデルとも、投与後早期より呼気中 $^{13}\text{CO}_2$ の上昇をみた。一方、 ^{13}C -脂肪投与では、正常は、投与後120分頃より呼気中 $^{13}\text{CO}_2$ の上昇をみたが、実験モデルでは、上昇はみられなかった。